

平成 28 年度 第 3 回 しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成 29 年 2 月 28 日 (火)

13 時 40 分～15 時 10 分

場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」2F 会議室

1 開 会

会議成立の報告 (事務局)

委員 26 名中 16 名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。
(協議会規約第 6 条第 2 項)

2 あいさつ

<しなの鉄道活性化協議会会長>

当協議会の会長を務めております、しなの鉄道(株)専務取締役です。よろしくお願いいたします。
本日は大変お忙しい中、当協議会にお集まりいただきありがとうございます。

平素はしなの鉄道の運営に関し、財政的支援、利用促進など様々な場面で皆様に協力いただいておりますこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

先週 2 月 22 日には取締役会が開催され、第 3 四半期の事業報告をしました。一部報道されていますのでご存知の方もおられると思いますが、若干説明させていただきます。

しなの鉄道線の状況は、定期券以外のお客様、いわゆる普通ローカルの動向では、昨年度、北陸新幹線の金沢延伸と善光寺御開帳があり、参拝に訪れる観光客など一昨年の 4 月、5 月の輸送人員は非常に良く、今年度はかなり苦戦すると予想し、善光寺御開帳等の効果の反動減があると予算計画もされていました。効果がどれくらいかははっきりとしないものの、経済効果 67 億円という当地上田市が舞台の大河ドラマ「真田丸」が追い風となり、上田駅の昨年度と今年度の 4 月から 12 月の累計を比べると、乗降人員が約 4 パーセント増えています。また、半年ほど前の数値ではありますが、北陸新幹線上田駅の利用状況も昨年度より増えていましたので、事実「真田丸」効果は相当あったと思います。従いまして、普通ローカルの 4 月から 12 月までの累計では昨年度を 1 パーセント弱下回っているものの、当初は 3 パーセント以上減少すると見込んでおり、「真田丸」の効果で輸送の増加につながったと受けとめています。また、しなの鉄道線の通勤、通学定期の状況は、ほぼ前年並みの水準を維持できたと捉えています。しなの鉄道線は全体として順調であったと思います。

一方、北しなの線は今年度で 2 年目のフル開業の年となりました。上半期は一昨年、長野市で善光寺御開帳があり、その反動減が大きく前年割れが続いていましたが、第 3 四半期 10 月から 12 月に入り、ほぼ前年水準に近づきつつあると考えています。今年は雪が多く輸送障害等もありましたが、地元の皆様の協力も得ながら安全輸送ができていたのではないかと思っています。

しなの鉄道線と北しなの線両線合せた全体では、4月から12月までの累計の輸送人員前年比が約2.4パーセント、収入前年比が約1.6パーセント減少していますが、これは昨年度の善光寺御開帳等を勘案すると、かなり健闘した数値ではないかと、むしろ対予算比では上回っている堅調な状態と捉えています。

それから、本日お配りしています観光列車「ろくもん」について紹介します。来年度で3年目となりますが、食事付きプランの1号及び2号は好調ではあるものの、3号は食事が付かない指定席プランでかなり苦戦をしており、この3号に如何にお客様に来ていただくかが課題となっています。とてもチャレンジングですが、平成29年4月からは「信州プレミアムワインプラン」として運行します。しなの鉄道線、特に千曲川沿いを走る区間は、国産のワイン用ブドウの一大産地となりつつあり、評価も非常に高いことがあります。昨年9月に行われたG7の交通大臣会合の中でも使われたワインが多々あり、これから長野県全体としてもワイン振興していくと思われ、しなの鉄道としても立地を活かし、ワインを切り口にいわゆる観光事業で貢献したいという思いがあります。今回お出しするワインは非常にお高いですが、当地のブドウで当地のワイナリーで作ったワインを主にお出しをするということと、これまでと同様に、食材もできるだけ地元産にこだわっています。地元産にこだわることで、地域の応援も受けながら、地域をPRしていく立場で一生懸命やりたいと思っています。今回の「信州プレミアムワインプラン」は、軽井沢出発が夕方となるように設定をしています。軽井沢を発車し上田と戸倉に停車することにより、長野県東信地域の代表的な温泉地である上田市の別所温泉と千曲市の戸倉上山田温泉に宿泊していただく、その誘因となるようなプランとして考えました。ひとつは軽井沢で日帰りをしてしまう年間800万人といわれるお客様を上田市、千曲市へ足を延ばしていただく仕組みづくりということで考えられていますので、何かの機会にPRをしていただけたら幸いです。

当社は今年の10月1日に開業20周年をむかえます。しなの鉄道は、1998年に長野で開催された冬季オリンピックの前年に開業しました。JRから引き継いだ後、これまでの20年間で、一時期は債務超過といった経営の厳しい危機的な状況が続きましたが、長野県、沿線市町の皆様、商工会議所の皆様そして利用者の皆様の支援のもと、危機はとりあえず乗り越え、最近では黒字を計上する状況になりました。これからの20年を考えると、ひとつには少子高齢化の中でお客様は純減していくのが確実な見込みであり、運賃値上げをしない限り、収入は少しずつ減っていくのは確かな予測と考えます。ふたつ目は、これまでの20年間はJRより引き継いだ車両を何とか修繕をしながら使ってきましたが、当該車両は既に40年近く経っており、これからの20年というのは車両更新を視野に入れ取り組まないと、鉄道事業の一番の根幹である安全・安定輸送がおぼつかなくなります。現在もエレベーター、レール交換それから電路設備の更新等行っていますが、その設備投資に加え、車両更新が非常に重い課題になっています。これは財政的にも非常に重い課題であります。三点目として、現在当社社員の平均年齢は34歳であり、開業当初のJRからの出向社員が全員退職され、現在は生え抜きの社員がほとんどです。人件費的な観点では、安価と言っては失礼ですが、若い分それほどの給料は出していません。これから若い社員が家族を持ち子供を育てるという状況になると、現状のままというわけにはいかず、人件費の増加を見込まなければなりません。これら三点が、これからの20年において大きなポイントと考えています。当社としても今後

効率化を図り、収入減を補う収益力の向上をしっかりと行っていかなければ、気が付いた時には赤字という話になってしまいます。観光列車「ろくもん」のような観光事業的なものについて、鉄道事業の根幹ではあるものの、お客様をお運びするだけでなく、プラスアルファで収益を稼ぐ、あるいはうなぎの寝床のような土地しかありませんが、不動産で活用する余地があるところもあります。新聞報道もありましたが、軽井沢は駅ナカですが、一部商業店舗を誘致することを念頭に、駅ナカのリニューアルということを考えています。また、軽井沢駅から碓氷峠のトンネルまで続く敷地をどのように活用するかが、今後の収益力向上において大事な点と思っています。これまでの20年も皆様に大変お世話になっていますが、これからの20年はそれにも増して皆様の支援、協力が無いと乗りきれないと考えています。現在置かれた状況を皆様と共有しながら取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

20周年ということで、利用者の皆様、沿線住民の皆様に感謝の意を表し、また、これからの20年を一緒にがんばろうということで20周年記念事業を計画しています。本日の会議では皆様に参画いただき、アイデアや意見があれば伺い、更に磨き上げ、開業20周年を皆様と一緒に盛り上げていきたいと思えます。

さて、本日の会議ですが、平成29年度に予定のしなの鉄道生活交通改善事業計画案、設備投資の計画について皆様の意見を伺うことがひとつの要件となっています。また、3月4日のダイヤ改正を踏まえた軽井沢一小諸間の増便実証運行の報告、そして来年度の当協議会の事業計画案について提案をさせていただき、意見を伺いたいと思えます。

是非とも活発な議論をいただき、実りのある会議としたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

以上、簡単ですが、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

(1) しなの鉄道活性化協議会規約の一部変更について

事務局から「資料1」を説明。

（異議なし、原案のとおり承認）

(2) 平成29年度しなの鉄道(株)しなの鉄道線生活交通改善事業計画（案）について

事務局から「資料2」を説明。

<議長>

資料2-4の設備投資といわれる機能向上を図る案件は、国が3分の1、県と沿線自治体で合わせて3分の1、残りの3分の1を当社が負担する仕組みとなっています。

資料2-5の維持修繕については、地元負担を求めておらず、国が3分の1負担し、残りの3分の2を当社が負担する形となっています。

（質問・意見特になし、原案のとおり承認）

- (3) ダイヤ改正後の軽井沢－小諸間増便実証運行について
事務局から「資料 3」を説明。

<議 長>

資料 3 の表に増便実証運行が始まる前の接続の状況が記載されています。新幹線の本数も当時から変わっていますが、出来るだけ新幹線と接続をとった状況をここ数年維持しています。

増便実証運行については、増便をすれば当然利便性が高まるのは明らかですが、小諸市、御代田町そして軽井沢町に負担してもらい、当社もそれなりに負担をして運行しています。その負担と利便性向上のバランスがとれる形にしていかなければなりませんので、今後は三市町とよく相談をしながら検討していきたいと考えています。

(質問・意見特になし)

- (4) 平成 29 年度しなの鉄道活性化協議会事業計画（素案）について
事務局から「資料 4」を説明。

<議 長>

活性化協議会事業は、事業によっては当社が主体、沿線市町または商工会議所が主体であるといった連携事業です。来年度はしなの鉄道開業 20 周年ですので、是非とも皆様力を借りて盛り上げていきたいと思えます。本日結論はでないと思われしますので、事務局で調整をさせていただき、意見を伺った上で計画にのせるかどうか判断をさせていただきます。

お客様感謝祭の 10 月 1 日というのは当社開業日であり、今年は日曜日になります。鉄道会社らしく催行するために、維持補修に使用される車両を展示、開放することなどを考え、駅周辺にある程度の空き地が必要であることから、主会場は小諸駅周辺を検討しています。主にお子様を楽しめるような屋外イベントと、著名人を招き講演会を行う、また、日頃より駅清掃・環境美化に尽力いただいているボランティア団体への感謝の意を込めて、表彰するなど屋内での式典を考えています。10 月 1 日は小諸市でふどまつりが行われると伺っていますので、そのイベント等と連携をさせていただきながら盛り上げていきたいと思えます。

小諸だけでなく列車を使って各地域に波及するように、また、北しなの線においてもイベントができれば良いと考えております。詳細はまだ詰まっていないものの、絵画コンクール、フォトコンテストは北しなの線を含めた全線から募集をしていき、協賛金についても商工会議所始めお願いに上がるかもしれませんが、協力いただけましたら幸いです。また、ラッピング列車についても各沿線市町の予算編成が終わっている中ですので、今後相談させていただきます。

今の説明への質問、意見等ありましたらお聞かせ下さい。

ア. しなの鉄道開業 20 周年記念式典を小諸ふーどまつりに合わせるということですが、本日 15 時半から小諸ふーどまつりの打合せ会議が開催され、小諸ふーどまつりの日程を決定します。私どもの事務局との調整は行われているのでしょうか。

<議 長>

しなの鉄道開業 20 周年記念式典を行う会場は小諸駅の裏側(小諸城址 懐古園方面)で行う予定で、しなの鉄道開業 10 周年記念を行った場所と同じ会場です。会場間の交流は可能と考えており、仮に小諸ふーどまつりの開催日が違った場合は仕方ないと考えていますが、また後程相談させて下さい。

イ. いずれにしても、連携を密にして、各々効果のあるイベントにしていければ良いと考えています。

なお、小諸駅エレベーターの本体工事について、小諸駅はしなの鉄道と JR 小海線のふたつの路線が共用しています。JR 小海線のエレベーター設置に関しては直接所管していませんが、しなの鉄道と JR 小海線の 2 箇所エレベーターを設置すると聞いています。これらの工事に係る進行をしていただける認識でよいでしょうか。

<議 長>

小諸駅のエレベーターは、2 番線・3 番線に 1 箇所、1 番線に 1 箇所、そして JR 小海線に設置されますので計 3 機設置されます。JR は JR で工事を行いますので、連携はしていますが事業費には入っていません。エレベーターに関しては本協議会と同じような、小諸市で設置された地元から意見を伺う協議会があります。その協議会に JR も参画し協議をしていますので、皆様の意見を反映した形で整備は進むと思います。

ウ. 現在の小諸駅がお客様に不便をかけていると不評です。しなの鉄道のお客様を増やしたいということはその通りですが、お年寄りが駅を利用できない状況のため、なるべく早くエレベーターの設置をしてもらえるとありがたいです。

エ. 昨年 12 月に信濃毎日新聞の一面に、軽井沢駅を活用したテーマパークといった記事があり、商業施設を誘致し、旧駅舎を改装しての改札口を設けることなどが検討され、予算も 2 億円ほど要すると掲載されていましたが、どこまで本当なのでしょうか。

<議 長>

現時点では構想段階であり、新聞報道が先行し明確なことは申し上げられないが、この度の記事は駅東側の碓氷峠のトンネルまで続く敷地は対象外で、軽井沢駅自由通路の下周辺についての話となります。軽井沢の話は三つ目的があります。ひとつ目は、軽井沢駅が橋上化された際に旧 1 番線は取り壊され、現在のしなの鉄道軽井沢駅は改札階とホームを結ぶ階段は 1 箇所しかなく、ゴールデンウィークや夏休みなど繁忙期

の利用実態を考えると、安全上問題ではないかと考えています。旧 1 番線には使用されていない階段とエレベーターがあり、それを使用するためには旧 1 番線と現在のホームを接続させることが必要となります。これがひとつ目の目的です。

ふたつ目として、軽井沢―横川間が廃線となった後、皆様の熱意もあり旧軽井沢駅舎記念館が建てられました。明治時代を彷彿とさせる非常に温かみのある駅舎で、当社としてもその駅舎を利用し、しなの鉄道軽井沢駅の魅力アップをしたいと考えています。

三つ目としては、ショッピングモールが南口にありお客様が流動していますが、軽井沢駅北口をもう少し活性化したいこともあり、旧軽井沢駅舎記念館を駅舎の一部として活用できないか、そして現在のしなの鉄道軽井沢駅のコンコースにある商業店舗を拡充できないかと考えています。旧軽井沢駅舎記念館に駅機能を一部移すことにより、現在の駅事務室に商業店舗を開設、拡充できないかということです。

これら三つの目的、特に商業店舗については、当社も収益を向上させなければならないという命題があり、それを達成するためにも活用したいと考えています。

商業施設に関しては、現在のしなの鉄道軽井沢駅の 2 階部分が広がることと、1 階の旧駅舎の中にも店舗を開設したいと検討しています。他のテーマパークについては、お子様が楽しめるような施設を考えています。事業費については億単位の費用がかかることは確かですが、信号その他諸設備の改修等も考慮すると 2 億円というのは不確かであり、数億円単位の投資費用がかかると思われます。軽井沢町を含め鋭意検討しているところです。

オ. 現行の改札口も残るのでしょうか、それともひとつに集約してしまうのでしょうか。

<議 長>

まだ確定ではないものの、新幹線に乗り換える方も相当数いますので、一箇所というのは難しいのではないかと、できれば北口へすぐ抜けられる改札口と、現行の改札口を残すことを考えています。

<議 長>

他にありますか。せっかくの機会ですから、住民代表の皆様何か意見があればお願いします。

カ. お世話様です。色々な事業を展開され、活性化に苦心しておられる様子、大変ありがたいと思います。

資料 4 (3) の 4) ②に小学校との連携という項目はなかなか良いことを考えられたと思いますが、実際どの位の学校を見越しているのでしょうか。また、小学校の社会見学では校門横付けのバスを利用しているのが主流と思われませんが、それを超えるような魅力的なコースを提案するなどして、本来バス利用のところを列車利用に変更してもらおう提案型にしないと、学校とすれば例年通りという風潮がありますので、新

しい方法に変更するのはそれなりのメリットがないと難しい気がします。年度始めの早い時期に提案される場合には少しは効果があると思いますので、尽力をお願いできればと思います。

<事務局>

ありがとうございます。小学校との連携については、何校ぐらいとは考えておりません。以前行った経緯もありますが、ローラー作戦のような沿線の学校をできるだけ多く回りたいとは考えています。確かにバスの方が主流と思われますが、小学校低学年や保育園、幼稚園の児童に実際に鉄道に乗ってもらう、きっぷを買ってもらうことは今後の貴重な体験になると思います。この度の意見を参考にさせてもらい、鉄道を利用してもらう目的とメリットを見出し、提案したいと思います。

<議長>

昨年、長野県の教育委員会と当社で連携協定を結びました。当社社長は東京海上日動からの出向ですが、長野県に来て発見したことのひとつに、都会に比べ長野県は車社会で列車内や駅で子どもを見かけないということがあります。駅や車内というのは良い社会体験の場ですので、これらの環境を利用してもらい、社会見学や職場体験という形で使ってもらえれば、公共交通機関ではあるものの、公共的な子どものための教育の場という意味でも貢献できると考えますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

また、学校行事というのは決まっているため、1年、2年も前からアプローチすることを念頭においていきたいと思っています。

<議長>

他にありますか。

それでは、平成29年度しなの鉄道活性化協議会事業計画素案については、本案を基に事務的に調整をし、来年度5月開催の協議会で正式な計画として確定できるよう取り組みますので、よろしくをお願いします。

- (5) その他（平成29年4月以降の「ろくもん」運行、「信州プレミアムワインプラン」、クルーズトレインについて）
事務局から説明。

<議長>

当協議会副会長の上田市政策企画部長より、一言コメントいただきます。

<しなの鉄道活性化協議会副会長>

皆さんこんにちは。上田市政策企画部長です。当協議会副会長という立場で一言あ

いさつ申し上げます。

本日の会議では熱心な、また、貴重な意見ありがとうございます。冒頭で会長から1年間の総括という形で報告された中で、善光寺御開帳の反動が予想より少なく、これは「真田丸」の影響が多分にあったのではないかという話がありました。その「真田丸」については、おかげさまで1年間を通じて大勢のお客様にお越しいただき、大河ドラマ館へはトータルで103万人を超える来場者がありました。長野経済研究所に委託し経済効果を算出したところ、交通費を除き長野県全体で143億円ほど観光消費がありました。それに加え、交通費42億円の経済効果がありました。交通費というのは出発地で抛出された金額、ガソリン代や高速道路代も含まれるため、全てが上田市に還元されたわけではありませんが、長野県内のどこかには還元されていると思われる。上田市だけで67億9,000万円ということであり、これは1年をかけて様々な関係の皆様が努力され、沿線の皆様の協力もいただいた結果と思います。

それから、もうひとつふるさと寄附があります。上田市でも今年の9月からインターネット媒体に掲出を開始し、返礼品のうち季節の果物が一番人気でしたが、滞在型の観光商品も皆様からの協力により充実しました。しなの鉄道は観光列車「ろくもん」を商品として提供し、これまでおよそ100件の申し込みがあります。こちらは5万円以上寄付された方への返礼品ですが、今年の12月から始めて100件であり、非常に人気が高い商品です。寄付された方のコメントには、「真田丸」を見て上田が好きになった、上田に行ってみたくてといった声もあります。そのような声があるということと、上田を訪れた際には上田で何か体験してみたい、食べてみたい、乗ってみたいということが観光列車「ろくもん」の効果にも表れているのではないかと思います。そして「真田丸」とタイアップした効果があったのではないかと考えています。

さて、しなの鉄道開業20周年ということで、これまで大変な時期もあり、これからの20年の中で困難なこともあるわけですが、沿線自治体総力を挙げて、支えながら、活かして、乗って、活性化に繋げていくことが大事だと思っています。出来る範囲で協力しながら有効的に活性化に繋げていきたいと考えていますので、皆様方の協力をよろしくお願いします。

以上です。ありがとうございました。

4 閉 会

以 上